

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

新城市地域公共交通会議 (新城市)

平成19年12月26日設置

令和4年4月14日 新城市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和4年4月～令和9年3月)

令和3年6月23日 地域内フィーダー系統確保維持改善計画策定

令和5年1月12日 令和4年度評価結果送付

(1) 新都市の概要

人口：43,870人
 鉄道：J R 飯田線が市を横断するように走る
 面積：499.2km（愛知県内で2番目に広い）
 特徴：森林面積が約8割を占め、高齢化率は36.1%

(2) 公共交通の概要

J R 飯田線、路線バス（豊鉄バス、Sバス）、高速バス（ジェイアールバス、豊鉄バス）、タクシーがある。また、交通空白地有償運送、福祉有償運送、スクールバスなどにより、市全体の移動手段が確保されている。

(3) 新都市地域公共交通計画

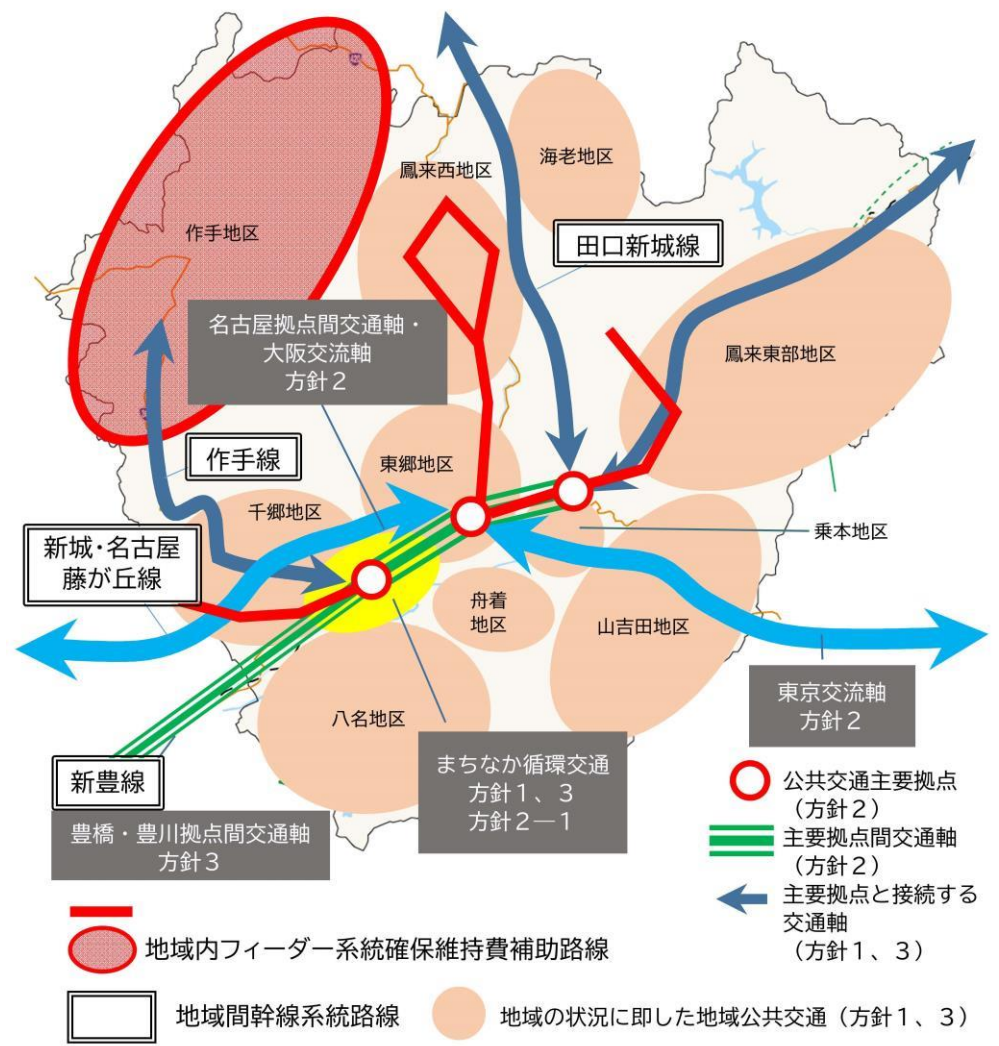
- 1) 計画の期間：令和4年度～令和8年度
- 2) 基本理念

ひと	地域交通を支える“ひと”を育みます
ちいき	安心して住み続けられる“ちいき”の移動手段を確保します
まち	活力にあふれる“まち”の公共交通をつくります

3) 基本方針

人が地域が輝き、生涯にわたり健やかで幸せに暮らせるまちを支える

- 方針1 暮らしに即した地域公共交通をつくる
- 方針2 大都市圏と地域をつなぐ公共交通をつくる
- 方針3 持続可能な地域公共交通をつくる



① 【新城市地域公共交通計画の策定と地域での検討】

新城市地域公共交通網形成計画の期間満了に伴い、地域公共交通計画を策定。

方針に定める公共交通ネットワーク形成にあたり、地域・行政・交通事業者等が一体となって本市の公共交通を支える新城市地域共創型公共交通システムの体制づくりを行った。

策定後に、モビリティマネジメントおよび各地域自治区における検討会、複数地域を跨いだ本市全体の意見交換など、地域が主体的に公共交通について検討できる体制づくりを行った。この継続した議論が現在、各地域の路線再編に向けた議論へと発展している。



八名地区での検討会の様子

地区	実績
東郷地域の足を考える会	10回
舟着地区での検討会	3回
★千郷地区での検討会	10回
新城地区での検討会	4回
鳳来南部地区での検討会	12回
八名地区での検討会	10回
★鳳来東部地区での検討会	3回
★鳳来北西部地区での意見交換	2回
★市全域での意見交換会	2回

② 【★湯谷温泉もつくる新城線の利用促進】

(1) 湯谷温泉もつくる新城線の延伸

道の駅もつくる新城近隣の観光施設の需要に合わせた路線の延伸、繁忙期には日祝の実証運行も行った。地域間幹線に指定される高速乗合バス「山の湊号」との企画切符は、過去実績を上回る結果となった。

(2) 若者議会と連携したマップ等の作成

市内の高校生・大学生からなる若者との協働で、マップ作成、車内掲示、車内音声案内の作成を行った。市内学生のバス活用への関心・意欲を高めるとともに、観光客への公共交通機関の利用案内を図るなど、多様な世代が意見を交えながら利用促進策を検討・実施することができた。



作成した観光マップ

③ 【★西部線の路線再編に向けた地域検討】

令和3年度から地域内で意見交換を重ねている。有識者・関係機関との調整、代表区長への説明、実際の運行に向けた実証実験などを重ねた結果、地域自らが主導し検討した再編案が令和5年度からの本格運行に向け最終調整が進んでいる。



※フィーダー路線に係る取組には★印を印字

その他実施事業一覧		実施時期	実施結果	結果の考察	実施状況
公共交通網整備	道の駅もつくる新城を交通結節点として整備	R 3.10～	豊鉄バス、ジェイアールバス、Sバスが施設内に乗り入れた。また、高速バス専用駐車場を設置した。	パークアンドができることになったことで、生活交通の利便性が一層の向上が図られたが、Sバスは一路線乗り入れしているのみのため、さらなる充実を図る必要がある。	 <p>写真：道の駅もつくる新城への各社バスの乗り入れの様子</p>
	つくでデマンドバスの指定乗降場所の追加	R 4.4	豊田市内（下山地区）への設置	利便性の向上は図られたが、大きな利用数の増加は見られていない。	
利用促進	高速バス山の湊号、田口新城線、湯谷温泉もつくる新城線が連動した企画切符の造成	R 2.10～ 随時見直し	観光利用の増加 (企画切符の利用者) R 3.11→198人 R 4.11→297人	湯谷温泉もつくる新城線の利用促進と合わせて効果的な切符造成となった。	 <p>←写真左 東三河公共交通活性化協議会で実施したイベントチラシ。本年のテーマは、徳川家康ゆかりの地。</p>
	東三河地域公共交通活性化協議会でバス整理券ラリーと歴史謎解きイベントの開催	R 4.7～9	感染症影響下よりも一定数の利用者増加が見られた。	市民プールなどといった小学生がよく利用する施設の閉鎖が続くなか、今後のイベントの方向性を要検討する必要がある。	 <p>写真右→ 湯谷温泉もつくる新城線を商品に盛り込んだ高速バスの企画切符チラシ</p>
	ジェイアールバス関東株式会社との利用促進イベントの実施	R 4.10.23	軽トラ市と合わせた高速バス乗車体験	初めて見るバスの大きさに圧倒された参加者の方が多かった。市民への周知には効果的であった。	
モビリティマネジメント	八名・鳳来南部・東郷地域での有識者を招いた地域懇談会の実施	R 4.10～	各地域約30名の地域住民の参加があった。	懇談会の中では地域住民の積極的な質疑も行われたため、市の公共交通への意識醸成を図ることができた。	 <p>写真：東郷地域で行った地域懇談会</p>
	市広報誌・市政番組を活用したバスの乗り方講座の実施	年間3回	広報誌掲載2回 市政番組特集3回	日頃の交通手段を見直すきっかけとなるため、今後も定期的の実施する。	

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

※利用者数、収支率は、**小中学生のスクールバス利用を除いた値**で算出

※目標値は27年度実績（H26.10.1～H27.9.30）を基に、利用者数はSバスは1.01倍、民間バスは現状維持、高速バスは28年度実績の2.5倍、収支率は1.01倍、満足度は+0.01として設定

評価基準

A・利用者数及び収支率の達成度が100%以上で満足度が1.0以上の場合

B・利用者数又は収支率の達成度のいずれかが100%を超えた場合

B・利用者数及び収支率の達成度が100%を下回ったが、満足度が1.0以上の場合

C・利用者数及び収支率の達成度が100%を下回り、満足度も1.0より小さい場合

Sバス路線名		利用者数（カッコ内は総数）			収支率（%）			満足度数（基準値は1.0）			自己評価
		目標値	4年度	達成度	目標値	4年度	達成度	目標値	4年度	目標との差	
新城	作手線	45,991	52,285	114%	29.74%	50.24%	169%	1.06	1.01	-0.05	A
	中宇利線	16,557 (57,637)	9,670 (33,430)	58%	10.84%	21.53%	198%	1.17	0.98	-0.19	B
	吉川市川線	3,627 (11,270)	3,459 (6,579)	95%	3.41%	6.67%	195%	1.20	1.00	-0.2	B
	北部線	4,330 (8,579)	2,937 (5,239)	68%	7.62%	4.19%	54%	1.14	1.14	0	B
	西部線	3,694	3,160	85%	7.72%	5.36%	69%	1.10	1.11	+0.01	B
鳳来	布里田峯線	415 (3,795)	143 (2,987)	34%	1.04%	0.45%	43%	1.15	1.08	-0.07	B
	塩瀬線	1,706 (6,685)	1,538 (2,774)	90%	3.63%	2.97%	82%	1.20	1.05	-0.15	B
	秋葉七滝線	2,707 (9,178)	1,705 (9,202)	63%	5.86%	3.08%	53%	1.20	1.20	0	B
	長篠山吉田線	2,180 (17,292)	1,435 (9,649)	66%	4.58%	2.25%	49%	1.12	1.06	-0.06	B
	湯谷温泉 もっくる新城線	4,982	1,880	38%	11.85%	6.26%	53%	1.00	1.20	+0.2	B
作手	つくであしがる線 守義線	3,410 (5,550)	3,494 (4,682)	102%	3.44%	2.08%	60%	1.20	1.07	-0.13	B

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

路線名 ※赤字路線は 地域間幹線系統	利用者数			収支率 (%)			満足度数 (基準値は1.0)			自己 評価
	目標値	4年度	達成度	目標値	4年度	達成度	目標値	4年度	目標との 差	
民間バス 田口新城線	51,051	32,084	63%	37.70%	21.60%	57%	1.10	1.03	-0.07	B
新豊線	145,416	104,779	72%	42.00%	32.00%	76%	1.00	—	—	B
四谷千枚田新城線	5,300	9,851	186%	14.70%	13.2%	65%	1.08	1.02	-0.06	B
高速バス 新城名古屋藤が丘線 「山の湊号」	10人/便	5.6人/便	56%	—	36.0%	—	—	—	—	

全体の評価

	R 3 目標	4年度	達成度		R 3 目標	4年度	達成度
Sバス利用者数	170,000	131,867	77%	Sバス収支率	19.4%	9.55%	49.2%
	R 3 目標	4年度	達成度		R 3 目標	4年度	目標との差
民間バス利用者数	201,767	146,714	73%	バス利用者満足度	1.17	1.05	-0.12

目標達成状況についての考察

- ・自己評価がAとなった作手線については、作手地内の高校へ通う市内および市外からの学生や、作手地内から地区外へ通う学生の利用が多く、市域を跨ぐ利用客が一定数いるため、地域間幹線としての役割の重要性が増していると思われる。（←乗務員及び高校へのヒアリング調査より）
- ・湯谷温泉もつくる新城線は、企画切符の更新などといった観光利用の促進策により利用数が増えている。
- ・つくでデマンドバスは、認知度向上や、利用者のリピート率の向上といった要因によって利用者数が増加している。（←運行業務委託会社への聞き取りにより）
- ・西部線は、路線の見直しに係わる地域住民も入った乗降調査の実施により、地域からの関心が高まっていることから、利用者数が増加している。

今後の方針

- ・地域からの関心の高いバス路線であるためにも、引き続き地域と協議を行い、路線の見直し、利便向上策、利用促進策を協働して実施する。

自己評価では、令和4年度地域公共交通確保維持改善事業の評価を公共交通網形成計画の数字に設定しているため、振り返りについても、網計画の数値を参照し考察しています。

方針1：暮らしに即した地域公共交通をつくる

課題 地域の声に即した路線となっていない

《対応策》

- ・バスを利用したことが無い方に対して、乗り方教室の実施などのきっかけづくりを行う。
→感染症影響下での対面イベントの実施が少ないため感染状況を見計らい行う。また、本年実施した広報誌、市政番組などでの継続的な情報発信を行う。
- ・全地区での地域の公共交通に係わる検討会の実施をすることで、市民の公共交通に係わる意識醸成を図る。
→現在、4地区で自主的な検討組織が立ち上がっている。他地域での立ち上げを支援しつつ、自発的な行動を促し、モビリティマネジメントを行う。
- ・高齢者Sバス無償化の検討など運転免許証自主返納をできる環境整備を行う。
→免許返納者へのアンケート調査をし、より免許返納しやすい環境づくりを行うための具体的な方針を検討する。

方針2：大都市圏と地域をつなぐ公共交通をつくる

課題 公共交通主要拠点間の接続が弱い

《対応策》

- ・広域的なICカード導入が予定されるため、乗り継ぎ手段の周知、二次交通の確保などmaas展開も検討・実施する。

方針3：持続可能な地域公共交通をつくる

課題 地域間幹線系統の補助要件となる利用者数が達成できていないまたは要件近辺である

《対応策》

- ・本年実施した利用者へのキャンペーンを実施するなど、定期的に生活・観光利用の需要喚起を行う。
- ・地域間幹線系統の田口新城線は、設楽町および関係機関・事業者と協働による利用促進策の実施、路線再編などに関する協議を行う。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	地域間幹線系統の新城名古屋藤が丘線については、2カ年連続で輸送量が補助要件を下回っていることから、運賃設定も含めて路線の維持・活性化策を検討されるよう期待します。	新城名古屋藤が丘線については、利用者への需要喚起を行うべく、キャンペーンの実施や広報誌・新聞広告の実施などを行うことで、令和4年度の補助要件は達成することができた。	継続的に利用者および新規利用者を獲得するための需要喚起を行いつつ、貨客混載や観光を含めた実証事業などに取り組み、補助要件を上回るよう取り組む。
	また、田口新城線については、今後輸送量が補助基準を満たさなくなる恐れがあるため、関係市町とともに路線のあり方を含め早急に具体的な対策が必要です	田口新城線については、関係市町村である設楽町とともに検討を図っており、令和6年度の見直しに向けて進んでいる。しかし、令和4年度の補助要件は現状未達成となっている。	令和5年度の補助要件を達成するべく、現時点から利用促進策を進めるとともに、路線の再編に係わる計画策定や新たなバス停の設置などに取り組む。
	拠点整備やニーズに応じた再編など、次期地域公共交通計画に掲げる事業を着実に実施されるよう期待します	ニーズに応じた再編実施に向け、地域の自主的な検討組織の立ち上げ支援を行っている。フィーダー路線である西部線は、令和5年度の再編路線の正式運行に向け調整が進んでいる。	令和5年度の西部線正式運行に引き続き、他地域での路線再編を進めると同時に、関係者と連携した拠点整備を行う。
前々回	高齢化の進展等、移動に係る課題を取りまとめ、住民が利用しやすい公共交通の再編へ向けた検討をお願いします。	市内の複数の地区において、地域住民が移動手段を検討する会を開催し、住民と一緒に、より利用しやすい路線網の検討を進めた。	引き続き住民との検討会議を進めていくとともに、地域の住民を集めて意見交換会を開催することで、ニーズにあった足の確保について検討をしていく。
	地域公共交通の空白地においては、地域のニーズに合った足の確保について検討が進むよう期待します。		
	幹線系統や高速バス、新たに運行開始した湯谷温泉もつくる新城線を含めた、広域での交通ネットワークによる利用促進を引き続き期待します。	高速バス山の湊号、田口新城線、湯谷温泉もつくる新城線がお得に乗車することができる鳳来寺企画切符を発売した。	鳳来企画切符以外にも、魅力ある観光地へ行くことができる企画切符を発売し、更なる利用促進に努める。
	令和3年度に予定されている次期地域公共交通計画の策定過程においては、並行して策定予定の立地適正化計画と連動した計画となるよう検討して頂くことを期待します。	立地適正化計画の策定会議の中に公共交通会議の委員にも入ってもらい、密な連絡を取り合いながら検討を進めた。	立地適正化計画だけでなく、総合計画や都市計画マスタープランといった、他の計画とも連動した計画となるよう検討を進める。

※前回：令和4年3月10日、前々回：令和3年3月1日

1. 推進体制

本計画の評価・検証、改善策の検討は新城市地域公共交通会議が主体となって実施します。
本計画の基本方針「人が地域が輝き、障害にわたり健やかで幸せに暮らせるまちを支える」に沿って掲げられている施策の実施にあたって、住民・地域・交通事業者・行政等がそれぞれの役割分担のもと、一体となって取り組むことが必要です。

そのため、新城市地域共創型公共交通システムに基づき、地域公共交通について住民や地域と行政や交通事業者が一緒になって検討し、地域公共交通会議へ提案し、同会議において検討・協議を行っていきます。

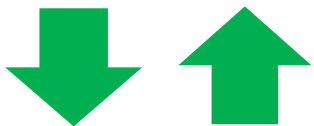
新城市地域公共交通会議

- ▶ 計画の評価検証、進捗管理
- ▶ 改善策の検討
- ▶ 地域からの提案を受けた施策内容の協議・検討

構成員

市民 市民団体
道路管理者 交通事業者
新城市 学識者 国・県

・ 地域での
検討結果の提案



・ 地域への施策内容の提案・具体内容の協議
・ 実施結果を踏まえた改善案の提案・協議

各地域の地域公共交通検討組織

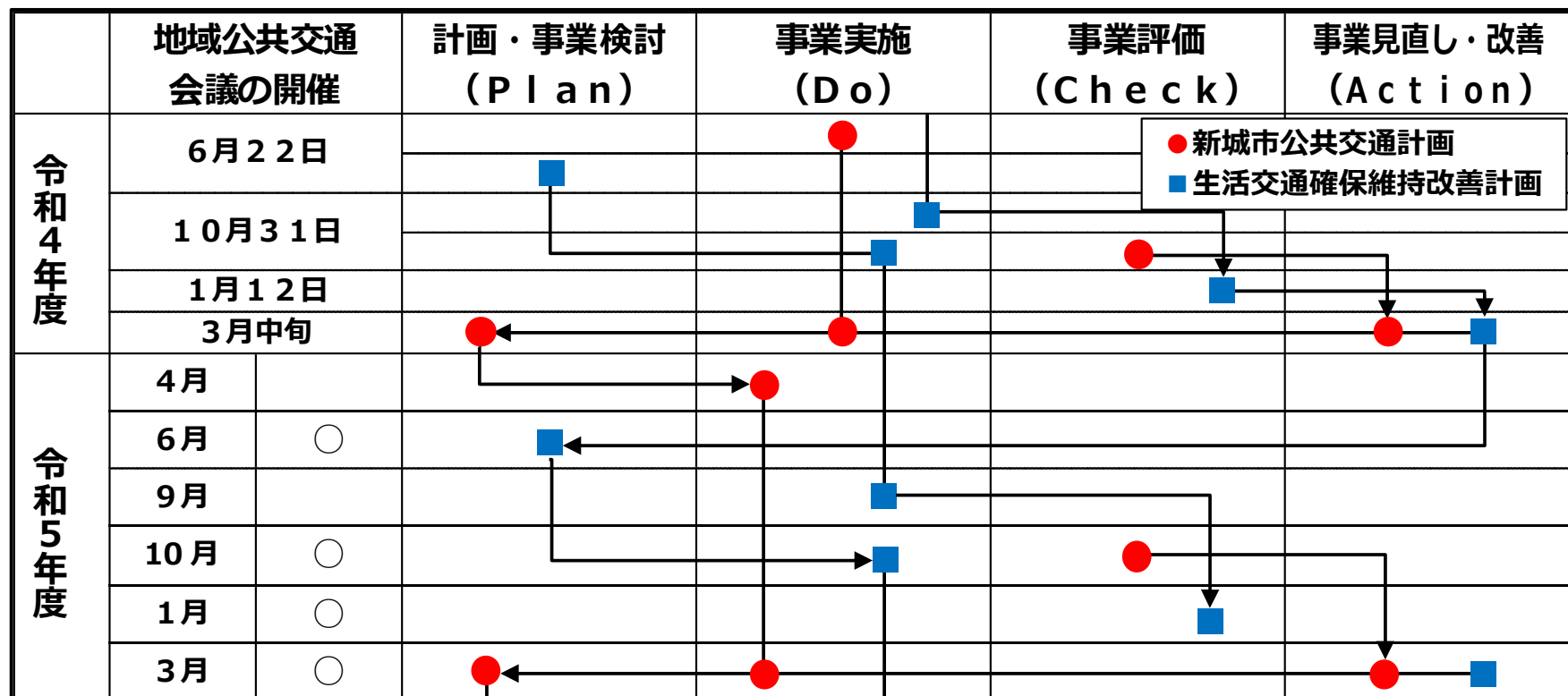
- ▶ 地域課題の解決や地域の活性化に必要な公共交通について検討
- ▶ 公共交通会議へ地域自らができる活動内容を提案
- ▶ 公共交通会議との具体内容の協議
- ▶ 協議結果を踏まえた活動の実施

新城市との連携協定
に基づき検討・協議
・ 実施の支援



名古屋大学

2. 運営方針・直近の公共交通会議



【協議会の実施状況】

第1回協議会 6月22日 主な議題：生活交通確保維持改善計画について

第1回地域公共交通意見交換会 7月27日 主な議題：各地域の現状の共有

第2回協議会（書面） 9月29日 主な議題：生活交通確保維持計画の変更について

第3回協議会 10月31日 主な議題：西部線の見直し、高速乗合バス山の湊号について

第2回地域公共交通意見交換会 12月23日 主な議題：各地域の取組の報告

第4回協議会 1月12日 主な議題：西部線の見直し、タクシーの営業区域、自己評価について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月12日

協議会名: **新城市地域公共交通会議**

評価対象事業名: **陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)**

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊鉄タクシー株式会社 西部線 (地域内フィーダー系統)	川田原滝～旧新城東高校	・希望者へ、マイバス時刻表を作成し配付した ・沿線地域である千細地区の地域住民で構成された「千細地域自治区の足を確保する会」において、西部線の見直しに向け、様々な議論を行った。	A 沿線住民の通院や買い物の足として利用されており、重要な路線となっている。 事業は計画通り行うことができた。	B ①利用者数 目標3,694人/実績3,160人 →達成度83% ②収支率 目標7.72%/実績5.36% →達成度69% ③利用者の満足度 目標1.10/実績1.11 →達成度(基準値1.0との差 +0.11) ・主たる利用者が高齢者であり、通院や買い物等といった、生活に必要な移動手段として利用されているが、地域で活発に検討をしたことにより、公共交通への関心の高まりから、利用者が増えた。	路線の利用者は主に高齢者であり、通院や買い物等の移動手段として利用されている。本年地域住民との意見交換をしたことや関係者との調整を図ったことで、令和5年度からの路線再編の準備が進んでいる。ニーズの確実な獲得を図るべく、最終的な調整を進めていく。
新城市 塩瀬線 (地域内フィーダー系統)	①上島田方面1便 (玖老勢～只持～上島田) ②大海駅方面1便 (上島田～玖老勢～大海駅) ③上島田方面2便 (大海駅～只持～上島田) ④塩瀬布里循環線1便4便 (大海駅～只持～源氏～愛郷～上島田～布里～玖老勢) ⑤塩瀬布里循環線2便3便 (大海駅～玖老勢～布里～上島田～愛郷～源氏～只持～玖老勢～大海駅)	・希望者へ、マイバス時刻表を作成し配付した ・地区住民との意見交換を行った	A 中学生の通学の足として、高齢者の通院、適切に運行できた。他路線との接続もしており、利用者の利便性も確保できた。	B ①利用者数 目標1,706人/実績1,538人 →達成度85% ②収支率 目標3.63%/実績2.97% →達成度69% ③利用者の満足度 目標1.20/実績1.05 →達成度(基準値1.0との差+0.05) ・主たる利用者が高齢者であり、通院や買い物等といった、生活に必要な移動手段として利用されている。令和2年度に循環線として再編したことにより利用者が一時増加したが、本年は減少した。	地域住民との意見交換の場を設け、ニーズを把握し、より利用しやすくするよう検討する。
新城市 つくであしがる線 (地域内フィーダー系統)	作手地区全域	・地区住民との意見交換を行った ・新たに指定乗降場所を設置した	A 高齢化およびバスが通れない狭小な道路や集落が点在する地域において、移動の足の確保を適切に行うことができた。	B ①利用者数(守義線含む) 目標3,410人/実績3,494人 →達成度102% ②収支率 目標3.44%/実績2.08% →達成度60% ③利用者の満足度 目標1.20/実績1.07 →達成度(基準値1.0との差+0.07) ・主たる利用者が高齢者であり、地区内での通院や買い物等といった、生活に必要な移動手段として利用されている。利用者のリピート率の向上により、乗車数が増えている。	関係者連絡会において、より利用しやすくするための改善点を把握する。移動の手段のない高齢者へきめ細やかに利用方法等の周知と新たな目的地などニーズ調査を行っていく。
新城市 湯谷温泉もつくる新城線 (地域内フィーダー系統)	もつくる新城南～鳳来寺山山頂	・高速バス「山の湊号」との企画切符を導入し、利用促進を行った ・新城総合公園内に新たにバス停を設置した。	A 今までバスが通っていなかった地域の住民の交通手段として、また、観光地への移動方法として、地域間幹線系統と連携した運行することができた。	B ①利用者数 目標4,982人/実績1,880人 →達成度38% ②収支率 目標11.85%/実績6.26% →達成度53% ③利用者の満足度 目標1.00/実績1.20 →達成度(基準値1.0との差+0.2) ・今までバスが通っていなかった地域の住民の新たな交通手段として、また、観光地への移動方法として、目標は達成できなかったが運行することができた。	引き続き、沿線住民へのバスの乗り方講座等の利用促進策を実施し、周知を図る。観光地との連携も検討し、関係先との協議を行っていく。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月12日

協議会名:	新城市地域公共交通会議
-------	-------------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
----------	----------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>新城市地域公共交通計画に則り、公共交通施策を実施します。</p> <p>【市としての将来像】 つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしろ</p> <p>【理念】 ひと 地域公共交通を支える“ひと”を育みます ちいき あんしんして住み続けられる“ちいき”の移動手段を確保します まち 活力にあふれる“まち”の公共交通をつくります</p> <p>【基本方針】 人が地域が輝き、生涯にわたり健やかで幸せに暮らせるまちを支える 方針1 暮らしに即した地域公共交通をつくる 方針2 大都市圏と地域をつなぐ公共交通をつくる 方針3 持続可能な地域公共交通をつくる</p>
-----------------------------	--

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

新城市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（令和3年10月～令和4年9月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
Sバス利用者数： 平成27年度159,839人 →令和3年度170,000人	市広報誌・市政番組を活用したバスの乗り方講座・マイバス時刻表作成の実施	バス事業者の有する乗降データの計測	達成状況：77% 令和4年度Sバス利用者数 131,867人	地域ごとでの生活交通の足についての議論が進むなか、同時にバスに対する不満意見も集まっているため、適宜改善対応に努める。	
民間バス路線： 平成27年度201,767人 →令和3年度201,767人	市広報誌・市政番組を活用したバスの乗り方講座の実施、広域連携による利用促進イベントの実施	バス事業者の有する乗降データの計測	達成状況：73% 令和4年度民間バス利用者数 146,714人	これらの取り組みは、なかなか目に見えて成果が出ないものとなったが、情報発信・乗り方教室・広域連携による利用促進イベントの実施は、今後も定期的に行う。	
Sバス利用者満足度： 平成27年度 1.10 →令和3年度 1.17	道の駅もつくる新城を交通結節点として整備	乗降調査の実施	達成状況：1.05ポイント 目標との差 -0.12ポイント	生活交通の利便性向上は図られたが、対象となるのは市内でも一部地域のみであるため、より一層の充実を図る必要がある。	
地域での検討会議： 平成27年度 0地域 →平成33年度 全地域	地域自治区ごとに設定される地域計画と連動し、地域住民の生活の足に係わる課題を聞き取り、解決する道筋を立てる場を設ける。	地域懇談会実施	地域での検討会議の開催状況 令和4年度：10地区中8地区	8地区の中でも、特定地域では有識者を招いた懇談会を実施した。地域全体で公共交通への意欲・関心を高めることができた。残る2地域でも検討が図れるよう取り組む。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。